

## 懐かしい写真で振り返る

このところ「大阪 IR 差止住民訴訟」関連、それも文字だけのレポートが多かった。訴訟に関心のある人には読まれたようだが、大阪以外の人には、何だか分かりにくかったのではと反省している。でも、いまの私にとって、夢洲万博と IR カジノ誘致には、黙っておれないので、お許しを願いたい。

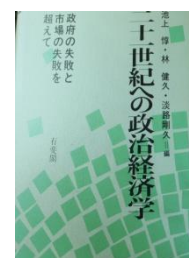
もうすぐ歳を重ねるので、すこし懐かしい写真から私を振り返ってみたい。とは言いながら、幼少から大学院時代までの写真は、ほとんど手元に残っていない。それで 1979 年に名古屋市立女子短大(市短)に就職してからの写真をいくつか紹介したい。

大阪市立大の大学院オーバードクター1年で、なんとか市短に就職できた。じつは大阪のある私立大にも内定したが、時間差で市短に決めた。短大特有の制約はあったが、よき先輩や優秀な学生に囲まれ、わが青春時代を堪能できた。私にとって、とりわけ精神面で鍛えられた時期であった。

とにかく若かったので、市短で夢中で過ごした。わが研究室はすぐ本で一杯になった。いまから考えると、研究室に毎日通って講義の準備、研究に集中したと思う。学生とゼミや大学祭、クラブ顧問などで交流して、卒業パーティでは毎回、自慢の?歌を披露したものだ。いまでは想像もできないような「イベント教員」であった。

研究面で思い出にのこるのは、1985 年 4 月に日生財団主催の国際シンポジウムに参加したことだ。緊張して報告したことが忘れられない。柴田徳衛先生にお世話になり感謝している。この時の報告は、86 年に東京大学出版会から刊行された『21 世紀への大都市像』に、大幅に修正して収録されている。85 年 9 月発行『ジュリスト増刊総合特集これからの大都市』に寄稿した「大都市点検 名古屋市」も大都市研究の成果の一つだ。

宮本憲一先生還暦を記念した『21 世紀への政治経済学』有斐閣、1991 年に「産業構造の転換と社会資本」という論文を書かせてもらったことも感慨深い。2 年間にわたる大学院浪人時代から、宮本先生には本当にお世話になった。先生の名著『社会資本論』と信州大 3 年のときに出会い、それを機に大阪市大の大学院をめざし現在に至っている。なお、1982 年刊行『公共事業と現代資本主義』垣内出版は、途中から共同研究の事務局長となったこともあり、宮本先生との共編者になっている。



(2022 年 9 月 15 日)